

十
人
十
鉄

61

小泉八雲記念館館長
小泉 凡

だから、鉄道が好き

2 024年4月、瀬戸内の岡山
駅と山陰の出雲市駅を結ぶ特
急（やくも）に、ブロンズカラーの
最新鋭車両273系が投入され、私
の住む松江では大きな話題になっ
ています。42年ぶりの新型車両。4月
26日にはじめて乗ってみて、最大の
課題だった振り子式車両独特の揺れ
がかなり改善されていることを体感

し満足できました。普通車のシート
ピッチも新幹線並みに広がり、シー
トカラーは私の好きな二種の緑に。
壁面は明るい木目柄、床は渋い木目
柄で明るさと落ち着きが同時に演出
され、山陰ゆかりのバンド「Offi
cial 髭男dis'm」の車内チャ
イムは旅人のテンションを高めてく
れました。



特急[やくも] 273系と一緒に(安全に配慮して撮影しています)

私の曾祖父はラフカ
ディオ・ハーンというギ
リシャ生まれの英国籍の
作家で、今年は没後12
0年、代表作『怪談』出
版から120年を迎えま
す。松江に1年3ヵ月居
住し、偏見の少ないオー
ブン・マインドなまなざ
しで日本を見つめたこと
が、現代社会で再評価さ
れているようです。彼の
日本名は小泉八雲。特急

振動・音・味覚で味わい尽くす特急〔やくも〕

〔やくも〕も、「小泉八雲」も、その
名の由来は「古事記」です。須佐之
男命がヤマタノオロチから櫛名田比
賣を救い、出雲の須賀の地で詠んだ
日本初の和歌「八雲立つ 出雲八重
垣……」に由来します。
子どもの頃から乗り物好きの私は、
小学校6年生から一人旅を始め、東
北の山村などを歩いていると、家出
少年と勘違いされたことも。はじめ
て出雲の地を訪ねたのは、1974
年。岡山駅から乗った特急〔やくも〕
はキハ181系の益田（島根県西部）
行きでした。食堂車でサンドウィッ
チを食べると、適度な揺れとエンジ
ン音が隠し味となっておいしさは格
別。岡山県側は高梁川、鳥取県側は
日野川に沿って山間を行く伯備線の
絶景に魅了されたものです。途中の
根雨駅でエンジントラブルがあり、
ディーゼル機関車に牽引されて米子
駅にたどり着いたことも、懐かしい

思い出です。
大学では旅を続けるためにフィ
ールドワークを重視する民俗学を専攻
します。その頃、小泉八雲も民俗学
の先駆者だったことを知り、はじめ
て先祖を身近に感じました。学生時
代には出雲市に民俗調査に通ったた
め、40往復以上特急〔やくも〕に乗
車。この時にはすでに伯備線と山陰
本線の一部が電化され、381系振
り子式車両となり、所要時間も20分
ほど短縮されていました。卒業後、
縁あって東京から松江に移り住み37
年がたちます。今日まで、出張や実
家との行き来に60往復以上特急〔や
くも〕のお世話になっています。
就寝前に時刻表で空想旅行を楽し
む趣味も半世紀に及びます。今年は、
各地で開かれる小泉八雲の記念事業
の際に、どんな鉄道旅を楽しもうか
と、画策して胸をときめかせる日々
です。



こいずみ ぼん
1961年東京都生まれ。1987年に松
江へ赴任し、妖怪、怪談を文化資源
として地域に生かす文化創造活動
や、小泉八雲の「オープンマインド」
を社会に生かすプロジェクトを世
界のゆかりの地で展開する。焼津
小泉八雲記念館名誉館長・鳥根県立
大学短期大学部名誉教授。主著に
『怪談四代記—八雲のいたずら』、
『小泉八雲と妖怪』など。